

総会開始の前に、コロナ禍の三年間で亡くなられた会員の方や大切な人を亡くされた方もおられたのではと全員で一分間の黙祷をしてから始めました。その後、「いつでもどんな時でも”いい人生だったね”と言えるような一日を過ごしたい」と言う年間テーマをお伝えして、二〇二二年度の活動報告、会計報告、二〇二三年度の活動計画案、予算案をご報告してから緩和ケア病棟から橋本淳先生をお招きして交流会を行いました。

橋本先生からは「岡崎市民病院緩和ケア病棟」の現状、「在宅ホスピス医療」の現状のお話を伺いました。面会禁止のコロナ禍で在宅を選択された方も多かったようです。

参加された方からたくさんのご質問があった中で、印象的だったのは「準備すること、覚悟など何を相談するべきかもわからない」とありました。まさに、在宅医療とは？何処までお願いできるのか？どのように在宅医と繋がっていくのか？などわからないことだらけでした。

橋本先生はすべてに對して分かりやすく説明して下さい、市民病院の一階には『がん相談支援センター』があり、誰でも何でも相談出来る場所があるそうです。まず迷ったら相談する所があることは心強いことでした。

私は十五年前に腎臓がんで余命三ヶ月の母を在宅医や訪問看護ステーションの方の力をお借りして穏やかな時間の中で見送った経験があります。主治医でなくても紹介してくれる機関もありました。

自身の病気やご家族の病気、一人暮らしの方も状況は様々だと思いますが、その前に何がわからないかを知り学んでおけば不安が少しでも軽減出来るようにも思いました。

総会を終えて、皆様から在宅医療をもっと知りたいとお聞きして、早速、橋本先生からご紹介いただいた先生方の中から石黒剛先生に一回目の講演をお願いしました。

知りたいこと学びたいことを勉強会に参加できなくても少しでも通信で皆様にお伝え出来ればと思っていますので、ぜひ皆様の声を往復はがきの欄でお聞かせ下さい。

(柴田由紀子)

〔総会感想〕

- ・久しぶりの総会で暖かく深い話が聞けて感謝です。当たり前の日常・・・あり得ない。元気で生かされている現在はミラクル、奇跡！！「自分のLiving will 人生会議」を家族と重ね、生きた意見を残したいと思いました。
- ・在宅医療専門医からのお話を医師本人から聞きたいと思いました。多くの方々が集まることができて良かったと思います。柴田代表が成長されていることを嬉しく思います。
- ・がん相談支援センターの大切さがよくわかりました。



- ・コロナが始まり会えなかった方々と久しぶりに会えて、橋本先生とも数年ぶりにお話が聞けましたが、私もこの数年間に変わったこと色々個人的にもありました。ありがとうございました。
- ・久しぶりに皆さまにお会いできて嬉しかったです。運営委員の皆さまには本当にありがたく感謝のみです。平成12年9月に胃がんで全摘手術、その前に宮崎の診療所で勤務されていた橋本先生に胃カメラを飲むことから今市民病院の緩和ケア部長となられ、今現在一昨年又乳がんをみつ、抗がん剤のみ病院と縁が切れません。後期高齢者となりましたが、地区のボランティアや頼まれば市民ホームでのお手伝い、食改のお手伝いと楽しく常に前進しもう少し元気で働きたいと思います。今日はありがとうございます。感謝！
- ・在宅看護師さんに診ていただいて母を看取りました。私は在宅医にお任せできた事がとてもよかったと思います。延命治療も望まない母でしたがその事も話して納得の上での治療をしていただき、とても落ち着いた中で見送る事ができました。「自宅で」という母の望みがかなえられて家族も母の名前を呼んでお別れができました。
- ・「主治医に伝えておくこと」改めて主治医との関係というか「気持ちの伝え方」は大切だと思いました。



- ・貴重なお話を多く聞けてよかったなと思いました。私も昨年9月に主人を送り出す事ができました。黄疸が出始めて市民病院に搬送され多分肝細胞がんと言えませんが、と言われ今晚かとも言われました。主人と今まで延命治療はしないことも話し合っていたので、主治医になっていただいた先生にお伝えして待ちました。一週間後に苦しむことなく眠ったままのように逝きました。面会が制限されていなかったので息子たち家族も充分面会して送ってくれました。私は感謝しています。

- ・緩和ケアのお話を橋本先生と皆さまのご意見をお伺いして思った事は自分ごととして今まで考えていないことでした。独り暮らし、兄弟の末っ子ということで迷惑かからず亡くなる準備をしたらとてころでしたが、その前の段階で大きな事業がありました。橋詰さんがおっしゃった「カクゴ」が出来るのでしょうか？元気な時とその時になれば考えも大きく変わると思います。お勉強させて下さい。よろしくお願いいたします。
- ・柴田さんの靴すてき、私も昔はそんな靴を履いていたのに・・・若いってすばらしい。繰り越し金がたくさんあるのですから料金がかかっても福祉会館とか竜美ヶ丘会館とか車がなくても行きやすい所で開いて下さると助かります。❤️旧～新福祉会館までタクシーが出るそうです。
- ・橋本先生からの具体的なお話に加え、全員の皆さんからの体験談も聴かせていただき大変貴重な時間が過ごせました。又通信が届くだけでなく実際に皆さんに会って顔を見て総会交流会ができてよかったです。

- ・市民病院にがん相談支援センターがあると知り、とても勉強になりました。
- ・今日は参加できて貴重なお話を聴くことができましてありがとうございました。集う所があり、それぞれ想いを出し合う場がある事は素敵な事だと感じます。時間がある時に「つどい」に参加してみたいと思います。
- ・3年ぶりの総会ありがとうございました。家族、自分が年を重ねるごとに持病が増えていきます。
- ・今日は3年ぶりに笑顔の皆さんにお会いできて嬉しかったです。先生のお話も大変参考になりました。体験された方のお話も実体験で心に残りました。
- ・市民病院がん相談支援センターは予約なしで、しかも岡崎市民病院にかかってない人も利用できるとわかったことが今日一番の収穫です。
- ・あまり苦勞なく見送った自分です。改めて思った事は①覚悟を決めておく。自分のしたい事。②家族が集まった時、もしもの時どうしたいかを話すようにしたい。と思いました
- ・看取る家族の対応や最期を迎えるに当たってちょっと参考かも
(小説) 久坂部羊(医師)著「老父よ、帰れ」図書館にあります。
- ・「延命治療とは何か」ということをもっと詳しく具体的に知りたい。医師により延命治療についての定義が違っているということはないですか。

緩和ケア病棟ボランティアの報告

岡崎市民病院緩和ケア病棟ボランティア室

毎週金曜日 2:00~2:45 ピアノ演奏のみ



演奏ボランティアが6月9日より再開されました。初参加の原田さんが庭の千草、ふるさとなど優しいタッチで弾いてくださいました。部屋のドアが開けられ、ベッドの方がお二人ピアノ近くに來られました。すかさず原田さんは「やかましくないですか」と声をかけておられました。

印象に残ったことは歩いてこられた女性が時々ハンカチで目を当てられていたお姿、又橋本先生がベッドの片隅に椅子を置いて一緒に楽しんでいらっしゃったお姿は忘れられません。

いつの日か、あの付き添いの方にはコーヒーを、患者さまにはフアフアなかき氷やアイスクリームをお出しできたら・・・と思いました。

この日のために多くの準備をしてくださったであろう市民病院の新しい看護師さんたちのお姿も新鮮でした。(橋詰清子)

“手縫い”の報告

岡崎市民病院・国際病院・施設などへ依頼された品を作り届ける。

第2月曜日 10:00~12:00 場所 カトリック岡崎教会



岡崎ホスピスケアを考える会から、清拭布を頂いています「幸田の家」です。私達の施設では、入浴や排泄・食事等お手伝いが必要な方に看護師・介護士が必要なケアを行なっています。高齢者の方が日々困る事がないように、体調の変化や気持ちの変化に合わせ生活をサポートさせて頂いており、頂いた清拭布はご利用様への介助の際に必要なウエスとして入浴や排泄で使用しております。皮膚の弱い高齢者の方のケアには、とても肌心地良く使用させて頂いております。食堂のテーブルや床拭きにも使用しており、日々使わせて頂いております。沢山の清拭布をありがとうございます。いつも感謝しております。(サービス提供責任者 山下千賀)

娘から「今年も百合の花を頂きました」とメールがありました。出勤時お会いする近所の「おばさま」からとの事。いつも自宅前をお掃除されているその方とは「おはようございます」「おはよう、行ってらっしゃい」と挨拶を交わしているそうです。“挨拶の大切さを忘れずにいる事”“優しく見守ってくださる方々がいる事”。娘には「良かったね、嬉しいね、そして嬉しいよ」と返信しました。

顔を見て言葉を交わす事の大切さ、久しぶりの総会でも感じた事です。

「つどい」は毎月開催しています。誰かに会ってお話したいと思っている方、どうぞご参加ください。お待ちしております。（神尾弘美）



♥ 岡崎ホスピスケアを考える会 ホームページよりのお知らせ

この会のホームページ(HP)を担当している難波です。

通信の号数が増えて更新が難しくなってきました。橋詰さんに相談しHPの改装を行っています。・緩和ケア ・手縫い ・つどい は通信に掲載されているのでページを削除しました。改めて①トップ ②紹介 ③勉強会のあゆみ ④私のたまため箱 ⑤通信 となっています。

大きく変わったのは通信のページです。途中から入会された方たちは、その時からの通信しか読めないで、ここには1号から全部読めるようにリンクさせました。まだ全部が完成していないので読めない号もありますが、今後時間をかけて全号読めるように進めていきます。

②「紹介」のページをまず読んでください。

1998年に岡崎の地に誕生した「岡崎ホスピスケアを考える会」。

1枚の雑巾の果たす役割とホスピスの原点が掲載されています。

③「勉強会のあゆみ」にはこれまで行って来た勉強会のタイトルが載せてあります。

通信にはその勉強会のことが詳しく書かれているのでリンクできるように

この後設定していきます。しばらくお待ちください。

④「私のたまため箱」の内容は3部構成になっているので3つに分けて見られるようにしていきます。

印刷して使いたい方はどうぞ自由にお使いください。

病になってからではなく元気な時から活用していきましょう。

最後になりました。①はトップページで行事などのお知らせが掲載されています。

こちらで確認して是非ご参加下さい。ご意見などありましたら事務局までお願いします。

♥ ご寄付のお礼 橋本晴美さま、退会された河合恵子さま、ありがとうございました。



あとがき

総会の感想文からお一人お一人のお顔を思い浮かべながら、文を打ちました。

懐かしいひとときを皆さまと過ごせたことに感謝です。

また7月29日の勉強会で一緒できたら・・・と思いました。

(橋詰清子)